

「自然環境」を 持続可能にする

限りある資源を大切に活かし、
持続可能な社会の実現に
取り組んでいます。

取組みテーマ より自然環境にやさしくらしへ

「ブレスエアー[®]」使用敷布団を回収。 循環する資源として新たな商品へ

当社は2024年度、「ブレスエアー[®]」敷布団の回収リサイクルプログラムを、メーカーである東洋紡エムシー株式会社と共同で初めて実施しました。ディノスで同商品を過去購入したお客様のうち、新たに同シリーズ商品を購入する方を対象に、使用済み商品を回収。1カ月でシングルサイズ58枚を販売し、48枚を回収しました。回収した敷布団は、同社が水平リサイクル型の素材として再生し、当社で再生商品化を実施する予定です。

今後も「循環」という価値をお客様とともに共有しながら、持続可能な社会の実現に貢献することを目指します。

取組みテーマ より自然環境にやさしくらしへ

豊かな自然を未来へつなげるため、 国産材を使った家具を企画

当社は、自然環境保全や林業の活性化につなげていくことを目的に、2011年頃よりさまざまな国産材家具を企画・販売しています。2024年度は北海道や岐阜県にある産地とコラボした家具3点が、「ウッドデザイン賞2024」^{※1}の「ライフスタイルデザイン部門」において、「ウッドデザイン賞」を受賞しました。

※1 一般社団法人ウッドデザイン協会が主催。木を使って様々な社会課題を解決するモノ・コトを表彰し、国内外に発信するための顕彰制度。



受賞した商品のひとつ「国産東濃檜の天然木頑丈ラック」



リサイクルプログラムイメージ図
(東洋紡エムシー株式会社提供)



「ブレスエアー[®]」敷布団の
シングルサイズ

「自然環境」を 持続可能にする

取組みテーマ より自然環境にやさしくらしへ／
気候変動の緩和に向けて

環境にやさしい素材を使用し、 サステナブルでエレガントな装いを提案

当社のファッション部門ではオーガニック認証素材や再生素材を使用した商品の提案を積極的に進めています。

ブランド「So close.」が2024年度に新発売した「はっ水吸湿発熱保温 ウール混中わたコート」の中わたには高品質のウール80%のほか、使用済みの素材からリサイクルした「ポリ乳酸」を使用。ポリ乳酸は、石油ではなく植物を原料とするプラスチックで、使用後は一定の条件で水とCO₂に分解され自然に戻る、生分解性をもつサステナブルな材料です。また、2024年7月より、ファッションの発送・梱包時に使う不織布カバーを、トウモロコシ由来のPLC(生分解性プラスチック)に変更。今後もカーボンニュートラルの実現に貢献する取組みを続けていきます。



「はっ水吸湿発熱保温
ウール混中わたコート」

植物を原料とする
プラスチック「ポリ乳酸」

取組みテーマ より自然環境にやさしくらしへ

一束ずつ簡単に取り分けられる シェアアレンジを新発売

卒業式やイベントなどお祝いごとで送られるフラワーアレンジメント。その場は華やかになるものの、イベントが終了すれば大きなアレンジは持ち帰られず、廃棄されるケースもあります。そこで、当社が運営する「フジテレビフラワーネット」では、2024年度「春の御祝シェアアレンジ」を期間限定で発売しました。一見すると大きなアレンジメントですが、実は小ぶりの10束の花束でできています。飾ったあとは手軽に分けることができ持ち帰りやすく、お祝いの気持ちと大切なお花を最後まで楽しむことができます。



お届け時はひとつの
アレンジメント

10束の小ぶりな花束に分けられます

取組みテーマ 責任ある紙の使用

不要なカタログをリサイクル 新たな資源回収プログラム試験を実施

当社は2024年度、運営する通販ブランド「ディノス」のお客様に配布したカタログのうち、不要なものを店舗回収する試みを実施しました。お客様に自社のショールーミングストアやアウトレット店舗に持ち込んでいただき、3カ月の期間限定で416部を回収。回収物はカタログ用紙調達先である株式会社日本製紙が運用する「クローズド・ループ」形式で、新たにカタログ用紙としてリサイクルし、使用しています。この取組みを通じ、大切な資源である古紙を長期的かつ安定的に印刷用紙の原料として循環させることを目指しています。



再生された紙は、ディノスのカタログ用紙として採用しています

取組みテーマ 気候変動の緩和に向けて

町田市より「2024年度まちだ3R賞」受賞。 廃棄物の減量やリサイクルに取り組んでいます

当社は「CO₂排出量(スコープ1・2)を2030年までに50%削減(基準年2013年)」と「2050年までにカーボンニュートラル実現」を目指しています。オフィスフロアの有効活用や空調設備の整備などにより、スコープ1・2^{※1}・^{※2}は2024年度39.7%減(基準年度比)となりました。また、サプライチェーンを通じたCO₂排出量削減の重要性を認識し、スコープ3^{※3}も実績の把握と削減に取り組んでいます。

2024年度、物流倉庫のディノスロジスティクスセンター東京(東京都町田市)は、2年ぶり2回目となる「2024年度まちだ3R賞」を受賞。事業系一般廃棄物に関して、減量やリサイクルなどの処理に積極的かつ組織的に取り組んでいることが評価されました。

2024年度 CO₂排出量(スコープ3)／単位CO₂・トン

カテゴリ1	購入した製品・サービス	55,430.0
カテゴリ4	上流の輸送、配送	6,302.2
カテゴリ5	事業から出る廃棄物	170.8
カテゴリ6	出張	93.6
カテゴリ7	雇用者の通勤	110.3
カテゴリ11	販売した製品の使用	12,206.1
カテゴリ12	販売した製品の使用者による廃棄	今後試算予定
合計		74,313.0

※ 次のカテゴリは算出外。カテゴリ2(資本財)、3(スコープ1,2に含まれない燃料およびエネルギー関連活動)、8(上流のリース資産)、9(下流の輸送、配送)、10(販売した製品の加工)、13(下流のリース資産)、14(フランチャイズ)、15(投資)

※1 燃料消費に伴う排出量(直接排出)

※2 購入した電力・熱の使用に伴う排出量(間接排出)

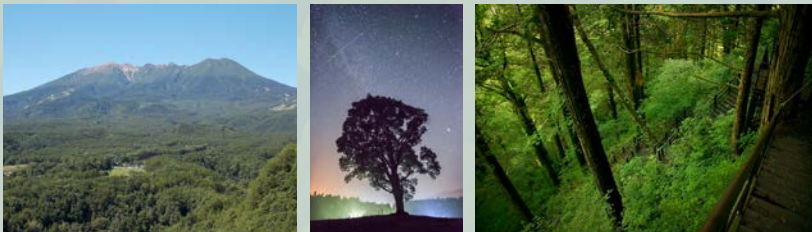
※3 その他の間接的な排出量



「自然環境」を持続可能にするための取組みとして、2023年度より、長野県木曽町・開田高原で「ディノスの森」づくりに取り組んでいます。音楽家の坂本龍一さんが創立した、森林保全活動に取り組む「一般社団法人more trees」とともに、様々な広葉樹の苗木を植栽し、多様性のある森づくりを進めています。



長野県木曽町・開田高原



長野県南西部に位置し、総面積の90%が山林だという木曽町・開田高原に「ディノスの森」があります。山々に囲まれた木曽町は、古くから「木曽ヒノキ」に代表される銘木の産地として知られており、林業や木工製品の生産が盛んな場所です。そして標高1,000m以上に広がる開田高原は夏でも冷涼な気候で、山々や川に恵まれた美しい自然の広がるエリアです。

2年目の植林状況とCO2吸収量

木曽町では人工林の林齢が高齢化し、林相転換（森林の状態を人為的に変えること）が求められており、今回の取組みによってヒノキの単一林から、「多様性のある森」への転換を目指しています。

2024年度分の植林は2025年5月に行いました。地元の木曽森林組合の皆さんの手によって1本1本植えられたのはホオノキ、ミズメ、シラカンバ、キハダ、ケヤキ、ミズナラ、カツラ、サワグルミの計8種940本の広葉樹の苗木。過去2回の植林と合わせると、計3,173本となりました。また、林野庁が提供する「森林による二酸化炭素吸収量の算定方法」に基づいて算定した結果、2024年度末時点で当植林活動によるCO2吸収量は4.1t-co2となっています。



2025年5月の植林の様子



2025年に植林したサワグルミの苗



当社スタッフが植林を体験（2024年11月）

初となる生育調査で、最適な植林時期を確認

2024年11月には、専門家による生育状況調査を行いました。生育は悪くはないものの、過去2回の植林はタイミングが遅く、根が着く前の乾燥によって枯れにつながった可能性があることを確認。今後は最適な時期に合わせ、植林を行っていきます。

お客様のクチコミ数が、森づくりの応援につながっています

お客様が投稿したご購入商品のクチコミ数を、「ディノスの森」づくりの応援数として換算。目標の年間30,000件を達成すると、ディノスがお客様に代わり、次年度の植林を行います。2023年11月から開始した本取組みは2024年8月に目標応援件数に到達したことから、次回の植林に向け準備を進めています。

未来につながる、森づくり。「ディノスの森」 https://www.dinos.co.jp/forest_s/

一般社団法人more trees *moreTrees* <https://www.more-trees.org/>